

金曜サロン

岡山市に本部を置き、世界各地の自然災害や内戦などで被災した人たちの医療救援活動を行っているAMD A（アメリカ医師連絡協議会）のアフガニスタン難民に対する医療支援活動が本格化している。パキスタン国内の難民キャンプで活動を進めるため、現地政府などと折衝する調査員として2カ月間、現地に滞在し、2月初めに帰国したAMD A緊急救援対策局長の小西司さんに、現地の生活の様子や今後の活動方針を聞いた。

【駒崎秀樹】

— 印象的な出来事はありましたか。

アフガニスタン国境に近いクエッタ近郊にある難民キャンプで医療支援を始めてわずか1週間後に難民の妊婦が産気づいたのです。十分な医療器具もなく、外国人の医療支援団は夜にはキャンプに滞在することを許されませんでした。今ではパキ

復興支援へ再び仕事を

タン人の医師、看護婦らが24時間態勢で医療できるようにになりました。

復興が進むにつれて、難民が帰国するので、比較的病院数もあり、国連から医療機器などが届けば診療体制は整います。

小西 司さん
パキスタンから帰国したAMD A緊急救援対策局長



メモ 1963年京都市生まれ。大学卒業後にガーナでの青年海外協力隊活動に参加。帰国後2年間の会社勤めを経て、ベトナム、ミャンマーで農村開発支援や機械技術協力などのNGO活動に参加。00年9月に帰国し、同11月からAMD A緊急救援対策局長。38歳。

立場で彼らと再び仕事したい。そして自分たちが支援した難民たちの行く先まで、この目で確かめたいのです。

— 大学卒業後、多くの期間NGO活動で、海外で過ごしてこられたようですが、何が駆り立てるのですか。

欧米などの大国とは違って、ニュースにもならないような国でも世の中が動いています。例えばアフガニスタンには米国による空爆が始まる前から、内戦

で、大騒ぎになりました。結局日没寸前に女児を出産したのですが、困難な状況の下で新たな命が無事誕生した喜びと同時に、このままキャンプで同様のことが続けばどうなるのだろうか不安になりました。今ではパキ

医療支援活動も難民対象の従来の活動から、アフガニスタン国内に移るようになっていきました。そしてその時には、ぜひ私も現地に赴きたいと思っています。今現地のNGOと連絡を取り合っていますが、カンダルそのものには比較的に

その一方で、AMD Aとしては干ばつが続いた農村部で巡回診療を担当することになりました。難民キャンプで活動していた現地の人々の働く姿は、宗教や民族、国境を超えて、頭が下がる思いです。今度ば復興支援の

アフガニスタン南部の主要都市カンダハルでの復興支援にも参加する計画があるそうです。今度ば復興支援の

会、より弱い部分に本質があるとも思っています。